

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「ちっちゃいよ、でも本気。」

テーマ:「小学生なのに、大学生に本気な美少女」

キャラクター

45

ストーリー

40

テーマ(設定)

40

文章力

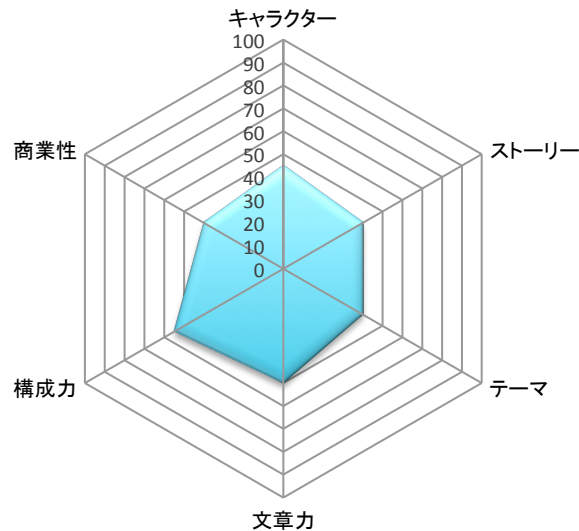
50

構成力

55

商業性

40



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語が都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・文章力、構成力的な面での問題は全く無い様に見受けられるが、いかんせんストーリーが……せめて深雪が主人公と良い仲ではあるがまだ付き合っていないことにするか、もしくは結衣子が徹底的に主人公に振られ続けるが頑張ろうとする話にしなければ、主人公が完全二股野郎と化しているため読み手側からの感情移入は相当難しいものになると思われる。いっそ中町一人称視点を三人称視点に変更し、男のクズっぷりと頑張る幼女の話として客観的な面白さを演出すればそれが一つの読み手を惹き付ける力として機能したかもしれない。

・結衣子が主人公を好きになった過程の描写が欲しい。冒頭始まってすぐ結衣子が先生大好き状態から始まってしまっているため、それよりは最初結衣子が中町先生を何とも思っていない状態から初めて、具体的なエピソードを通じて好きになっていく過程を描いた方が、結衣子が先生を手にいれるために頑張る姿勢により説得力が増すのではないかな。

・構成自体は起承転結がしっかりと成されているため、やはり最大の問題はこの作品の最大の魅力が何かが不明瞭であることにあると考えられる。今のままでは二股主人公の優柔不断さにイライラする話になってしまっているため、この優柔不断さを笑いに変えるような描写をするか、もしくは心情描写をもう少し丁寧に描くことができるか(例えば先生が電話番号を結衣子に教えてしまうシーンなどは全く意味が分からなくなっている。深雪が好きなら「電話番号は教えられない」と答えるべき場面であるからこそ、教えるのであればそう感じた心情変化の経緯をちゃんと記すべき、といった話)。

合計加点ポイント 0

総得点: 270 / 600

B方式総合得点: 12150 点